はじめに

現時点で「古文なんて、何書いているのかさっぱりわからないから大嫌いだ」という人は、なんの問題もありません。
一番恐ろしい勘違いは「古文なんて日本語なんだから、勉強しなくてもどうにかなる」と思ってしまうことです。
断言しておきますが、勉強しておかないと、絶対にどうにもなりません。
「古文＝日本語」だと思っている人がいるならば、**「古文＝外国語」**だというくらいイメージを変えましょう。
ただし、**コツさえつかめば**、本当の外国語を学習するよりも**ずっと簡単に、ずっと楽に「点取り科目」にすることができる**のが、古文のオイシイところです。

さて、「受験古文」の最終目標は、**「初見の古文の文章を辞書なしで読めて、問題が解けること」**です。
そのために必要な三つの要素は、**「文法・単語・読解のルール」**です（「読解のルール」の中には、**「古文常識」**や**「作品常識」**といわれるものも含みます）。三つの要素のうち、「文法」と「単語」が古文の土台となるところです。
古文ができない、読めないという人のほとんどは、この「文法」と「単語」をおろそかにしてしまっています。
この講座は、この土台の一つである、**「文法」の入試に必要な知識を全19回で身につけてしまう講座**です。
基本から説明をして、難関大といわれている大学の文法入試問題も解けるようにしていきますので、
「古文なんて大キライ」という人も、
「古文には多少自信があってさらに得意科目にしたい」という人も、
「嫌いかどうかすらわからないくらい、何ひとつ勉強していない」という人でも！
どんな人でも大歓迎です。
この講座で文法のコツをしっかりつかんで、是非、古文を得点源の科目にしてください！
三年生になり、さらに忙しくなった時に、古文で苦しまなくてもいいように、今の間に一緒に仕上げてしまいましょう！

予復習・授業の受け方について

高１・高２　古文＜文法編＞

予習は一切不要です。ノートも不要です。**テキストと筆記用具**さえあれば大丈夫です。**テキストへの書き込み**で授業をすすめていきます。**書き込み用のペン（何色でも可）**をご準備ください。

テキスト中に**〈例題〉**や**「問題」**がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。その際、動画は一時停止を押して問題を解き、解き終えたらまた再生を押して、解説を聞いていく、というスタイルで。なお解答欄はありませんので、選択式問題は番号などに直接印をつけ、記述問題はスペースに書いてください。ちなみに、**〈例題〉はオリジナル問題**で、**「問題」は実際の入試問題**です。

講義を見終えたら、復習を必ずしてください。テキストに書いてあること全てが大事なことなのですが、特に**太字になっているところ**や**空欄に自分で書き込んだところ**に関して、重点を置いて覚え込むまで何度も復習してください。

復習が終わったら、後ろにある**「確認問題」**を解きましょう。確認問題は何度でもできるように、答えは直接書き込まないようにしてください。万一間違えた場合は、テキストの該当箇所に戻って復習をしてから、再度「確認問題」を解き直してください。

この「確認問題」を、記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してくださいネ！

目次

高１・高２　古文＜文法編＞

第１講　歴史的仮名づかい・活用形　……　p. 6
第２講　動詞　……　p. 10
第３講　形容詞・形容動詞　……　p. 26
第４講　助動詞（活用と接続）　……　p. 36
第５講　ず・き・けり・つ・ぬ・たり・り　……　p. 48
第６講　ぬ・ねの識別　……　p. 62
第７講　る・らる／る・れの識別　……　p. 72
第８講　す・さす・しむ／「せ」の識別　……　p. 86
第９講　まし・めり・らし・まほし・たし・ごとし　……　p. 96
第10講　む・むず・じ　……　p. 104
第11講　らむ・けむ／らむの識別・べし・まじ　……　p. 116
第12講　２つの「なり」・なりの識別　……　p. 138
第13講　係助詞・間投助詞　……　p. 156
第14講　格助詞　……　p. 168
第15講　接続助詞・「て」の識別・副助詞・「し」の識別　……　p. 184

第16講　終助詞・ばやの識別・なむの識別……p.204
第17講　呼応の副詞・「に」の識別……p.224
第18講　敬語の種類・敬語の補助動詞……p.246
第19講　敬語の本動詞・敬意の方向……p.258

第1講　歴史的仮名づかい・活用形

PART1　歴史的仮名づかい・活用形

★歴史的仮名づかい

〈表記〉

（現代語→古文）

① じ　→「ぢ」／ず　→「づ」

② 促音「っ」→つ　／　拗音「ゃ・ゅ・ょ」→「や・ゆ・よ」

〈読み方〉

（古文→現代語）

① ゐ　→「　　」

② ゑ　→「　　」

③ くゎ　→「　　」／　ぐゎ　→「　　」

④ 語頭以外の「はひふへほ」→「　　」

⑤ a＋う　→「　　」／　i＋う　→「　　」／　e＋う　→「　　」／　o＋う　→「　　」

★歴史的仮名づかいにおける五十音図

ア行	あ		う（囲み）		お
ヤ行	や		ゆ		よ
ワ行	わ		う（囲み）		を

★品詞＝十個（名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞）

○名詞＝「　　　　」

○動詞・形容詞・形容動詞＝「　　　　」

★活用する品詞＝四個　※活用する＝形が変わること

「動詞」・「形容詞」・「形容動詞」・「助動詞」

★**活用形**＝六種類

「未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形」

○活用形を考える時は「　　　　」を見る。

活用形	下の語
未然形	ず
連用形	用言・けり・たり（完了）・て・、
終止形	。・」・引用の「と」
連体形	体言
已然形	ども
命令形	。・」・引用の「と」

第1講　PART1　確認問題

①「ゐのなかのかはづ」の現代仮名づかいとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　るのなかのかわず　　イ　いのなかのかわず　　ウ　いのなかのかはず　　エ　えのなかのかわづ

②「すゑひろがり」の現代仮名づかいとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　すえいろがり　　イ　すいひろがり　　ウ　すえひろがり　　エ　すいいろがり

③「かねてもとほほゑまれて、…」の傍線部分の現代仮名づかいとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ほおえまれて　　イ　ほほえまれて　　ウ　おおえまれて　　エ　おほえまれて

④「取る[a]もの手に つかず[b]、…」の傍線部分a・bの活用形として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

ア　a未然形・b連用形　　イ　a連体形・b已然形　　ウ　a連用形・b未然形

エ　a終止形・b已然形　　オ　a連体形・b未然形　　カ　a終止形・b命令形

⑤「行く(a)と言へ(b)ども、…」の傍線部分ａ・ｂの活用形として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

ア　ａ未然形・ｂ連用形　　イ　ａ連体形・ｂ已然形　　ウ　ａ連用形・ｂ未然形
エ　ａ終止形・ｂ已然形　　オ　ａ連体形・ｂ命令形　　カ　ａ終止形・ｂ命令形

確認問題　解答

第１講　PART１　確認問題　解答

〔解説〕

① ア行の「い」、語頭以外のハ行の「ひ」、ワ行の「ゐ」の３つが、現代仮名づかいに直した場合「い」となる。「かはづ」の部分は、語頭以外のハ行をワ行に直すこと、「ぢ・づ」は「じ・ず」と直すことから考え、「かわず」となる。

② ワ行の「ゑ」は「え」と直す。「すゑ（末）＋ひろがり（広がり）」という複合語であり、「ひ」は語頭となるため、ハ行のままとなる。

③ 「ほほゑむ」という動作を表すので、ワ行の「ゑ」のみ「え」と直し、「ほほ」の部分はそのままとする。

④ 活用形は、用言の直後の語を見て考える。「取るもの」と体言に続いているので、ａは連体形。また、「つかず」と打消の語に続いているので、ｂは未然形である。

⑤ 「行くと」と言い切る基本形の直後に引用を表す語が続いているので、ａは終止形。また、ｂは「言へども」と「ど・ども」などに続いている形は、已然形となる。

〔解答〕

① イ　② ウ　③ イ　④ オ　⑤ エ